



スムーズな小学校生活のスタートに向けて

楽しい小学校生活のスタートのために

園児も保護者も、入学のためのイベントを経験するたびに「もうすぐ小学生になる！」ことを少しずつ自覚していきます。うまく移行できれば小学生の生活習慣が徐々に身についていきます。そのためにも、子どもにとって楽しいスタートになることが望ましいですね。スムーズな導入は「ここが自分の居場所」だという所属感を生み、子どもは安心して学校生活を始めることができます。

できることを支える、5歳児から1年生になるときのサポート

園で年長さんになることはいちばん年上のお兄さん、お姉さんになることでもあり、5歳児は自信と意欲に満ちあふれています。ところが、小学生になると6年生にあれこれ世話をしてもらおうという逆転現象が起きます。ここで、新入生が力を発揮できる場を先生方に考えてもらいたいと思います。「やってあげる」のではなく「自分でできるように支える」という視点は、重要です。園で「成長した」「できるようになった」という子どもの自信をそのままうまく小学校生活に生かすために、幼保小連携が大切だと考えています。

与えて、教えて、覚えさせて……と、させるのではなく、やる気を促し、子どもが自発的にやりたくなるような導入を念頭においた新学期にしたいですね。

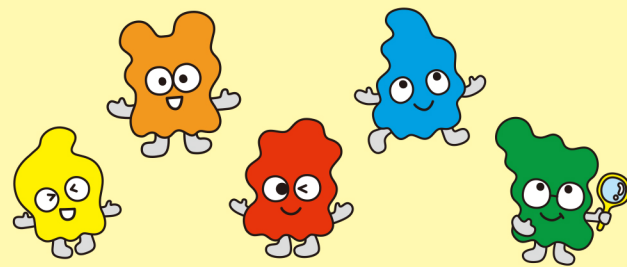
先生方に大切にしてほしいこと…言葉かけと交流の機会

園の先生には子どものワクワク感を膨らませしてほしい、小学校の先生にはワクワク感をモチベーションに変えてほしい。ですから、主体性を発揮させる言葉かけは大事です。入学式に向けて自信や期待を育むことを意識してほしいです。

自分は先生方にずっと見守られてきた、自分の成長を知ってもらっているという喜びは、その先の意欲につながります。単元の区切りとは違って、成長は連続していますから、子どもの育ちはリレーのバトンのように園から小学校へ引き継いで見守ってほしいのです。

また、園児たちは小学校の敷居を高く感じやすいので、この段差をできるだけ小さくするためには交流がオススメです。年齢や学年を越えた子どもたちが交わることはお互いの発達や成長にもよい影響を与えます。指導者側も同様に、園と学校の先生が気軽に交流できる環境があれば、情報共有ができますし、連続性という視野で子どもたちの成長を見守ることができます。

園と学校の先生が、積極的に交流しながら手を携えて、子どもの発達を支えることが望ましいですね。



つながる・つなぐ

Gakkenは、幼児期での学びと小学校での学びを、なめらかにつないでいます。

幼児教育 × 小学校教育



小学校入学に向けて、こんな悩みはありませんか？

Q1

子どもが安心して小学校生活をスタートできる工夫(心がけ)はありますか？

A1

幼稚園や保育園の生活から、小学校への生活にスムーズに移行できれば、安心して過ごすことができます。園での挨拶などの生活習慣や、体を動かすなどの遊び・学びが、小学校と「つながって」いることを意識しながら指導すれば、子どもたちは安心して学校生活をスタートできるでしょう。

Q2

小学校生活に期待と不安が入り混じる子どもへ、どんな言葉をかければよいでしょうか？

A2

小学校の入学に向けて、子どもたちは期待と不安を抱えながら生活をしています。園の先生はそのような期待を膨らませるような言葉を、学校の先生は期待が学校生活のモチベーションとなるような言葉をかけるとよいでしょう。そのためには園で何を体験しているか、小学校では何を学ぶかということも、双方で理解しておく必要があります。

Q3

小学校入学に際して、子どもをどのように迎えるのがよいでしょうか？

A3

3月までは年長さんで、自信と意欲にあふれた生活を送っています。ところが、4月になって急に年上に囲まれるという大きな変化が生まれます。そこで、これまでの生活で培った自信や意欲を失わないように迎えたいところです。園の生活を通して子どもたちが獲得した力を小学校生活で発揮するためにも、幼保小の連携が大切になります。

幼児教育と小学校教育をつないでいるのがGakkenの特長です。



横山洋子先生
千葉経済大学短期大学部
こども学科教授



Gakkenはどんなことをしているの？
気になる内容をチェック

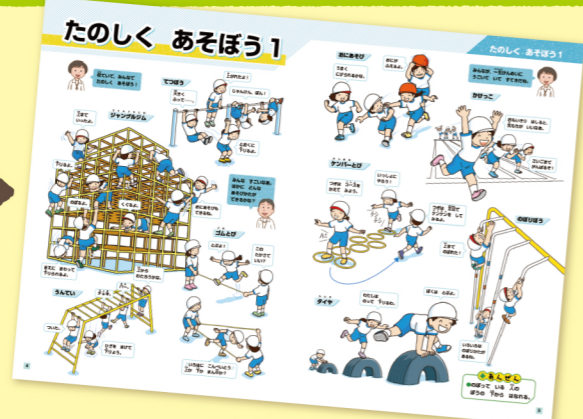


「がっけん つながるえほん」は 小学校にもスムーズにつながります！

たとえば…からだあそびで…



▲できた 2022年4月号
「まねっこ できた! ちょう」



▲みんなのたいいく
1年 p.4-5

2022年度の「できた」では、毎月の裏表紙で虫になりきって体を動かす「からだあそび」を紹介しています。2歳児さんの育ちに合わせ、体を動かす楽しさや、心地よさを味わいます。体育の副読本「たのしくあそぼう」のように、「運動遊び」から始まる小学校の体育にスムーズにつながります。

たとえば…きもちで…



▲はっけん! 2023年4月号
「こんなとき どんな きもち」



▲新・みんなのどうとく1 p.114-115
「30 ないちゃった」

「はっけん!」では毎月、園現場で起こりうるシチュエーションをテーマに、気持ちを考えます。自分の気持ちを伝え、他者の意見に耳を傾けることで、お互いを認め合うきっかけにします。小学校道徳科の学習指導要領の内容につながるように小学校道徳の教科書とも連携して作成しています。

小学校1年生の道徳教科書にも、相手の気持ちを考え、自分の考えを伝える単元があります。さらに、自分とは異なる意見から視野を広げ学びを深めていきます。コラムのページでは役割演技も紹介し、体験することで一層人の気持ち、立場を考えることができる作りになっています。

出会いが増える



1歳児 はじめて

やる気が増える



2歳児 できた

友達が
増える



3歳児 いっしょ

不思議が
増える



4歳児 なんで?

気付きが
増える



5歳児 はっけん!

たとえば…せいかつで…



▲いっしょ
2022年6月号
「きらきらえんの
いちごぐみ
いっしょに
おはよう!」



▲新・みんなのどうとく1 p.10-11
「1 あかるい あいさつ」

「いっしょ」で取り上げる生活のページでは、毎月、生活習慣を確かめます。挨拶をする気持ちよさを絵本を通して体験します。道徳の教科書では、1年生の最初の単元で挨拶を取り上げています。幼児期から取り組み、身近な内容を年度の初めに設定することで、小学校での授業に抵抗なく入れるようにしています。また、イラストからの読み取りが中心で、長い文章を読むことに慣れていない子ども、絵本の延長のような気持ちで取り組みます。

たとえば…からだで…



▲はっけん! 2022年8月号
「からだの ひみつ はっけん!」

「はっけん!」2022年8月号で「からだ」をテーマにした特集を採り上げ、自分の体に興味をもち、健康への意識を高めるきっかけにしています。

「はっけん!」付録「やりかたずかん」でも、体の動かし方を紹介しています。イメージをつかんで体を動かせるように、図解しています。

小学校体育科の学習指導要領(1・2年)の内容につながるように、小学校体育の副読本とも連携して作成しています。



▲はっけん! 5月号付録「やりかたずかん」



▲みんなのたいいく 1年 p.3, 37